

音楽科学習指導案

日時 平成27年6月5日（金）第2校時

対象 3年5組（男子20名 女子20名 計40名）

指導者 教諭 徳永賢子

1 題材 「リズムで表現～ボディパーカッションに挑戦！～」

2 指導目標

- (1) ボディパーカッションの特徴に関心をもたせ、主体的に創作や演奏に取り組もうとする態度を育てる。
- (2) 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、ボディパーカッションの演奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫させ、どのようにリズムアンサンブルをするかについて思いや意図をもたせる。
- (3) 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせ、リズムアンサンブルをさせる。

3 題材の評価規準

- (1) ボディパーカッションの音色や演奏法などの特徴に関心をもち、リズムアンサンブルの創作や演奏に主体的に取り組もうとしている。
- (2) ボディパーカッションの音素材の音色やテクスチャなどを知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、構成や全体のまとまりを生かして音楽表現を工夫し、どのようにリズムアンサンブルをするかについて、思いや意図をもっている。
- (3) ボディパーカッションの音素材の特徴や構成を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて、リズムアンサンブルをしている。

4 教材

ボディパーカッションの演奏映像

「手拍子の花束」

5 題材について

(1) 題材設定の理由

学習指導要領の第2学年及び第3学年の目標と内容A表現(3)イ「表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。」と、〔共通事項〕(1)ア「音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じること。」を柱にし、ボディパーカッションのアンサンブルを通して、音素材の特徴を感じ取って構成を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって取り組ませ

ることを目指して、本題材を設定した。

ボディパーカッションは誰もが容易に音を鳴らすことができる身近な音素材であり、演奏法や体の部位によって、様々な音色が表現できる。また、ボディパーカッションは、一人一人がもつ共通の音素材であることから、表現したいイメージをグループで話し合い、音を鳴らしながら試行錯誤して音楽づくりを進めていく活動に有効であると思われる。そこで、本題材ではボディパーカッションの音色の特徴を生かして、イメージを音色やリズムと関わらせ、構成やテクスチャを工夫しながら音楽づくりをさせたい。また、協働でテーマに基づいた音楽づくりを進めていく活動を通して、思いをもってつくることや表現することの楽しさを体感させたいと考える。

(2) 教材について

○ ボディパーカッションの演奏映像

ボディパーカッションの映像はソロ、4人のアンサンブル、大人数によるものと三つの演奏形態を用意した。ソロではボディパーカッションの音色の多様さ、4人のアンサンブルでは音の重なり方から掛け合いのおもしろさ、大人数の演奏では強弱の変化、構成の工夫に気付かせることができると思う。これらの映像から、ボディパーカッションに対する関心を高め、ボディパーカッションの演奏法を捉えさせたい。

○ 「手拍子の花束」

ボディパーカッションという名称を考案した山田俊之氏の作品で、パートごとに異なる2小節のリズムパターンを8小節遅れで重ねていく曲である。中間部には4小節のユニゾンがあり、後半では最初と反対に第4パートから演奏を始め、最後は再び4小節のユニゾンを演奏し、曲を終える。単純なリズムの繰り返しで、たたく体の部位が示されており、ボディパーカッションの演奏の入門編として取り組みやすい。レベルに応じて、パートを減らしたり、アドリブを入れたり、アンサンブルの構成を変化させたりすることができ、演奏者の工夫で、よりオリジナリティあふれるボディパーカッションの作品をつくることができる。

(3) 生徒の実態について

今回の学習に取り組むに当たって、生徒の音楽に対する実態の一面を知るために、次のようなアンケートを実施した。

(4月21日 男子20名、女子20名 計40名 実施)

1 グループによる音楽活動について

好き・どちらかというところ好き…39名

どちらかというところ嫌い…1名

〔主な理由〕(自由記述)

- ・ 友達と工夫しながら一つのを創り上げるのは楽しいから
- ・ 自分にはない発想を知ることができ、みんなで楽しく活動できるから
- ・ みんなでやると、たくさんの意見が出てよりよい音楽ができるから
- ・ 苦手なことを助けてもらえるから
- ・ 他の人と音を合わせるのが好きだから

〔主な理由〕(自由記述)

話し合いが多く、自分の音楽の力をなかなか伸ばせないから

2 楽譜について

- ① 階名読みができる (はい…32名 ・ いいえ…8名)
- ② 音符や休符の名前がわかる (はい…33名 ・ いいえ…7名)
- ③ 音符や休符の長さがわかる (はい…28名 ・ いいえ…12名)
- ④ リズム読み(打ち)ができる (はい…28名 ・ いいえ…12名)

3 ボディパーカッションについて

- ① どういうものか知っている (はい…32名 ・ いいえ…8名)
- ② 演奏を聴いたことがある (はい…16名 ・ いいえ…24名)
- ③ 演奏の経験がある (はい…8名 ・ いいえ…32名)
- ④ 挑戦してみたい (はい…36名 ・ いいえ…4名)

本学級の生徒は、知的好奇心が旺盛で、授業や行事など学校生活全般において、意欲的に取り組んでいる。音楽の授業や朝の会、帰りの会でも積極的に歌っている姿が見られ、表現活動への意欲も高い。また、本校の継続した研究の成果から、グループ活動を肯定的に捉え、協力して学習に取り組むことができる。

創作については、生徒は、第1学年では音階の特徴を生かした旋律づくりと二部形式の曲づくりを、第2学年では、曲想を生かしたリズム伴奏づくりを経験している。これらの学習を通して、楽典の知識や読譜力が高まっている生徒が増えてきている。しかし、音符や休符の長さの割合が理解できたり、リズムを聴き取ることができたりしても、実際に演奏するとなると、躊躇する生徒も多い。また、記譜を苦手とするため、創作活動に消極的な生徒もいる。リズムパターンを提示し、リズム打ちの練習を積み重ねる、グループで協力して音楽をつくる場を設定するなど、創作活動に取り組みやすい手立てが必要である。

ボディパーカッションについては、どういうものか知ってはいるものの、演奏の経験がない生徒が8割であった。生徒にとって、新しい音楽経験であるボディパーカッションに挑戦させることで、興味・関心をもって創作活動に取り組ませることができると考える。また、イメージと関わらせて、構成やテクスチャなどの全体のまとまりを工夫する学習に取り組ませることで、これまでの創作の学習を深化させることができると考える。

以上のことから、本題材において、ボディパーカッションによるアンサンブルを協力してつくり上げる活動を通して、創作の楽しさや表現する喜びを味わわせたい。

(4) 指導に当たって

生徒の実態を踏まえ、本題材を扱うに当たり、次のようなことに留意して学習を進めていきたい。

ア グループでテーマに沿ったリズムアンサンブルを工夫する活動を通して、仲間と共に音楽をつくり上げる喜びを感じさせ、創作活動への興味・関心を高めさせたい。

イ 題材の導入場面において、形態の違うボディパーカッションの演奏を比較鑑賞させることで、ボディパーカッションの演奏に関心を高めさせるとともに、音素材や構成等の特徴に気付かせ、音楽表現の工夫につなげたい。

ウ 既製のボディパーカッションの作品の演奏を通して、ボディパーカッションの奏法や強弱の変化の付け方を体験させ、自分たちの作品づくりに生かせるようにしたい。

エ リズムの創作に当たっては、生徒の音楽経験によって個人差があるため、リズムパターンを示

したり、記譜の仕方を工夫したりすることにより、個に応じた支援を行い、基礎的な表現の技能を高めさせたい。

6 指導計画（全6時間）

時	主な学習活動	教材	単位時間における評価規準		
			音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
1	<ol style="list-style-type: none"> ボディパーカッションの演奏から特徴を感じ取る。 リズム、音色、構成、テクスチュアなどの特徴を話し合い、ワークシートに記入する。 奏法を練習する。 	ボディパーカッションの演奏映像	ボディパーカッションの特徴に関心をもち、学習に主体的に取り組もうとしている。	ボディパーカッションの音素材の音色やテクスチュアなどを知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ受している。	
2	<ol style="list-style-type: none"> 楽譜から、気付いたことを発表する。 パートごとに練習する。 全員で演奏する。 グループで演奏に工夫を加える。 	手拍子の花束	ボディパーカッションの多様な音色やテクスチュアなどの特徴に関心をもち、音素材の特徴を生かして表現する学習に主体的に取り組んでいる。	ボディパーカッションの音色やテクスチュアなどを知覚し、その働きが生み出す雰囲気を感じ受して、演奏しようとしている。	ボディパーカッションの音素材の特徴やテクスチュアなどを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。
3	<ol style="list-style-type: none"> 示されたテーマに基づいて、イメージや音楽の構成をグループで話し合う。 イメージをリズムで表す。 つくったリズムをグループで聴き合い、組み合わせる。 	創作曲	ボディパーカッションの演奏方法に関心をもち、主体的に創作活動に取り組んでいる。	イメージと関わらせて、どのようにリズムをつくるかについて、思いや意図をもっている。	表現したいイメージと関わらせてリズムをつくる技能を身に付けている。
4 (本時)	<ol style="list-style-type: none"> ボディパーカッションの特徴を確認し、それらの効果を考える。 グループの課題を話し合う。 グループで構成やテクスチュアなど工夫して創作をする。 		音色や構成、テクスチュア等に関心をもち、それらを生かした表現を工夫する学習に主体的に取り組んでいる。	音色や構成、テクスチュア等を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じ受しながら、自分たちの作品に生かそうとしている。	ボディパーカッションの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けてリズムアンサンブルをしている。
5	<ol style="list-style-type: none"> グループで全体のまとまりを考えた表現を工夫する。 互いのグループの演奏を聴き合い、自分たちの演奏を見直す。 		全体のまとまりに関心をもち、音楽表現に生かす学習に主体的に取り組んでいる。	イメージと関わらせて全体のまとまりを工夫し、どのように演奏するかについて、思いや意図をもっている。	全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて音楽をつくっている。
6	<ol style="list-style-type: none"> 表現の工夫を加え練習する。 発表する。 学習のまとめをする。 		ボディパーカッションの特徴を生かしてアンサンブルをする学習に主体的に取り組んでいる。	イメージと関わらせて音楽表現を工夫し、つくったリズムをどのように演奏するかについて、思いや意図をもっている。	つくったリズムを演奏する技能を身に付けている。

7 本時の実際（4／6）

(1) 指導目標

- ア 音色や構成、テクスチャ等のボディパーカッションの特徴に関心をもたせ、それらを生かした表現を工夫する学習に主体的に取り組ませる。
- イ 音色や構成、テクスチャ等を知覚・感受させ、それらをイメージと関わらせながら、音楽表現を工夫させる。
- ウ ボディパーカッションの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせ、リズムアンサンブルをさせる。

(2) 評価規準

- ア 音色や構成、テクスチャ等のボディパーカッションの特徴に関心をもち、それらを生かした表現を工夫する学習に主体的に取り組んでいる。
- イ 音色や構成、テクスチャ等を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、自分たちの作品に生かそうとしている。
- ウ ボディパーカッションの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて、リズムアンサンブルをしている。

(3) 授業設計上の工夫

ア 協働的な活動を生かした授業におけるリーダー育成の工夫

音楽的な技能を要する活動と音楽のイメージなどを話し合う活動の両方の場面でリーダーシップを発揮できる生徒の育成を目指し、グループでのボディパーカッションの作品づくりに、リーダーを中心に組みこませる。

本題材では、話し合い活動には意欲的であるが、音楽的な技能はさほど高くない生徒をリーダーに選出している。リーダーには、話し合い活動と音楽活動のそれぞれの場面で、どのようなことに気を付ければよいか、「リーダーの心構え」について事前に指導した。また、音楽的な技能に不安がある生徒でも音楽を聴き分け、作品づくりの参考にできるように「よりよい音楽づくりのポイント」をリーダーに示し、活用させる。さらに、リーダーを集合させ、学習の流れや活動の様子を確認する場面を設定することで、教師がグループの進捗状況を把握し、リーダーへの助言ができるようになる。

イ 協働による創造的な音楽活動を充実させるための授業展開とワークシートの工夫

本時は、ボディパーカッションの特徴である構成やテクスチャなどに着目させ、その効果をイメージと関わらせて作品に生かしていく「ひろげる」活動の場面である。協働による創造的な音楽活動の活性化を促し、表現の工夫を試行錯誤しながら音楽をつくり上げていく過程を見取ることができるグループ用のワークシートを作成し、活用する。記譜にこだわらず、色分けされた付箋を用いたり、曲線や言葉を記入したりして、音楽の構成や全体的なまとまりを分かりやすくし、話し合いを活性化させることをねらいとした。

(4) 展開

過程	時間	主な学習活動	形態	指導上の留意点 (◆は評価の観点☆は研究の手立て)
導入	10分	<p>1 映像を見て、ボディパーカッションの魅力や特徴について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 映像から感じたボディパーカッションの魅力について発表する。 音色や構成、テクスチャの違いがもたらす効果について考え、発表する。 <p>2 本時の目標と学習の流れを把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ボディパーカッションの特徴を生かして、「告白」のストーリーが伝わる音楽を工夫しよう。 </div>	一斉	<p>○ 前時の学習内容を想起させる。</p> <p>○ 音色やリズム、動きの変化から構成やテクスチャなどの特徴に着目させる。</p> <p>○ 音色や構成、テクスチャの違いからどのような効果があるか確認させる。</p> <p>◆ 評価ア</p> <p>○ 本時の目標と学習の流れを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時は、ボディパーカッションの特徴を生かした表現を工夫して、作品づくりを進めていくことを理解させる。
展開	25分	<p>3 自分たちの作品を振り返り、グループの課題を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時に記入したグループ用ワークシートを見ながら、話し合ったイメージがうまく表現できているところとできていないところを考える。 グループの課題を話し合い、発表する。 <p>4 グループごとに、ボディパーカッションの特徴を生かした表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「よりよい音楽づくりのポイント」を活用しながら、表現を工夫する。 グループ用ワークシートに工夫した表現内容を書き加えていく。 	グループ	<p>○ 作品のイメージを伝えるには、どのような工夫が必要か考えさせる。</p> <p>○ グループの課題を発表させる。</p> <p>☆ 話し合いの過程が見取りやすいように、グループ用ワークシートを活用させる。</p> <p>◆ 評価イ</p> <p>○ グループのイメージを想起させながら、音楽づくりを進めさせる。</p> <p>☆ リーダーを集合させ、学習の進め方を確認し、「よりよい音楽づくりのポイント」を示す。</p> <p>☆ 「よりよい音楽づくりのポイント」をヒントに表現の工夫をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> リズムパターンの組み合わせ方や重ね方、たたく部位を変化させることで雰囲気が変わることに気付かせ、工夫を促す。 <p>☆ 構成や動き、強弱等を変更したり、工夫を加えたりしたことをグループ用ワークシートに記入させる。</p> <p>◆ 評価ア・イ・ウ</p>
終末	15分	<p>5 イメージと関わらせて、特徴を生かした表現を工夫しているグループの演奏を聴き、音楽づくりの参考にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 演奏からどのようなイメージが伝わったか、発表する。 <p>6 次時の予告を聞く。</p>	一斉	<p>○ グループで話し合ったイメージや表現の工夫について、あえて説明をさせずに、演奏のみを発表させる。</p> <p>○ 聴き手に、演奏から伝わったイメージを発表させる。</p> <p>○ 演奏したグループのリーダーにグループで工夫したことを発表させ、今後の課題を考えさせる。</p> <p>◆ 評価ア・イ・ウ</p> <p>○ グループ用ワークシートを示しながら、活動の中で工夫できていたことやもっと工夫が必要なところを伝え、次時の意欲につなげる。</p> <p>○ 次時は、全体のまとまりを考えて、再度、練習した後、中間発表をし、アドバイスし合うことを予告する。</p>